

# 未来の球児に魅力伝える

## 競技人口減 内海高部員が児童ら指導

### 高校野球のこれから

なる。

全国最多の179チーム

立ち始めた。今年の愛知大会に出場する連合チームは昨年と同じ四つだが、「春日井商・日進・守山・山田」(名古屋地区)は過去最多の4校で構成する。3年生が引退し、1、2年生

こうした状況の中、県内では、自治体と地元の高校が手を組んで野球人口の減少に歯止めをかけようと模索する動きが出ている。

高校球児が減っている。日本高校野球連盟によると、昨年7月末時点の全国の加盟校の硬式部員数は13万8054人で、32年ぶりに14万人を割った。最も多かった2014年は17万312人で、わずか6年で2割近くも減少したことに

部員不足に悩む学校も目

南知多町にある唯一の高校、県立内海高校では19年から年に一度、町と協力して「親子でグラウンドキャッチボール教室」を開催している。同校の野球部員は

昨年2月のイベントでは同校野球部員が講師となり、素手で楽しめる専用球「ゆうボール」を使ったキャッチボールのほか、ボールを数字の的に当てて楽しむ部員手作りの「ストラックアウト」などを用意。今年にはコロナ禍で中止となったが、これまでに地元の園児や小学生ら約70人が参加した。町の担当者は「コロナの状況次第だが、今後も子どもたちに野球に親しんでもらえるよう教室を続けていきたい」と話す。



▲昨年2月に開かれたグラウンドキャッチボール教室。内海高校の野球部員が講師を務めた

### 認定証

#### 様

貴校は日本野球キャッチボール教室に参加し、楽しい中、一生懸命がんばりました。野球やほかのスポーツをもっと好きになって、勉強もがんばってください。これからも頑張りをたくさん覚えて、元気な思い出を作ってください。応援しています。

愛知県立内海高等学校野球部

#### あなたの記録

つよさ (ボールの速さ)	時間	わざ (コントロール)	ボール
きびしさ (ボールの握り)	20秒以内	はやさ (速さスピード)	1回以内

「親子でグラウンドキャッチボール教室」の認定証=いずれも山下博史監督提供

昨年参加した同校の永井

(この連載は仲川明里が担当します)

マネジャー2人を含めて12人。同町出身で今年で就任7年目の山下博史監督(39)によると、部員数は例年10人前後で、就任以来、ベンチ入りメンバー(夏の大会で20人)がそろったことは一度もないという。

一方、「野球教室では選手たちが得たものも大きかった」と山下監督。園児の動作や1球1球に、部員たちが真剣に向き合う姿が印象的で、自分たちが子どもに感じている野球の楽しさにもう一度気づかされたように見えたという。

山下監督は「参加している子どもたちの年齢が低いので、野球人口の減少防止につながるかはまだわからない」とした上で、「イベントをきっかけに、将来内海高校で野球をしたいという子どもたちが増えてくれれば」と期待する。

日本高野連や朝日新聞社などは野球の持続的な発展を目指し、普及や育成、けが予防などに取り組む「高校野球200年構想」を18年から実施している。競技人口が減るなか、高校野球を次世代につなげるには何が必要なのか。愛知から高校野球の持続可能なあり方を探った。